

「遺伝子工学」練習問題解答 7 章

- 1 サザンブロット法は DNA を検出するのに対し、ノーザンブロット法は RNA を検出する手法である。
- 2 DNA マイクロアレイ。
- 3 SDS と還元剤により直鎖状の負電荷に帯電した変性タンパク質を調整することができ、電気泳動により $\ominus \rightarrow \oplus$ に分子量に従って分離できる。
- 4 N 末端を含む 10 残基程度の配列を決定できるため、データベースさえ存在すればタンパク質同定できる。一方、アミノ酸が化学修飾を受けていると配列決定できない。またハイスループット化には向かない。
- 5 図 7.7 参照。
- 6 ① ドナーとアクセプターが近接場 (1~10 nm) に存在すること。② ドナーの蛍光波長とアクセプターの励起波長に重なりがあること。
- 7 TEM は透過電子線によって対象物の濃淡を描くのに対し、SEM は二次電子を検出して表面状態を描かせる。